

もも・ネクタリン特報

◇ 今後は、梅雨期の連続した降雨や気温の上昇によって病虫害が多発する時期となります。せん孔細菌病の多発園では引き続き対策を徹底し、薬剤散布は間隔を空けすぎないように注意しましょう。また、仕上げ摘果・袋掛けをすすめるとともに、徒長枝の整理・支柱立て・園内除草等の管理作業は適宜実施しましょう。（詳細は裏面に記載）

* 隣接する園地や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。

* ももとネクタリンの混植園は、ネクタリンの防除を実施してください。

もも

第8回 定期防除

散布時期： 7 月 1 日～ 8 日 （前回散布から 1 4 日以内）

◇ せん孔細菌病の多発園は、散布間隔 10 日以内を厳守してください！



散布薬剤： 水	1 0 0 リットル	
展着剤	2 0 ml	
ナリアWDG	5 0 g	（収穫前日、2 回以内）
⑧ イカズチWDG	6 6 g	（収穫前日、5 回以内）

（劇・・・劇物のため、ご購入の際は印鑑をご持参ください）

散布日	月	日
散布量		リットル

対象病虫害：灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類、アブラムシ類

10 a 当り散布量：6 0 0 リットル

【注意事項】

①せん孔細菌病の多発園は、デランフロアブルの 600 倍（7 日前、4 回）を加用する。

さらに、今回の散布から 7～1 0 日後にスターナ水和剤 1, 000 倍（7 日前、3 回）を特別散布する。

*ただし、収穫前規制に注意する。（収穫 7 日前まで）

②ナリアWDGはぶどう（ピオーネ、サニールージュ）、西洋梨ルクチェに薬害を生じる恐れがあるので、隣接園は注意する。

ネクタリン

第8回 定期防除

散布時期： 7 月 1 日～ 8 日 （前回散布から 1 4 日以内）

散布薬剤： 水	1 0 0 リットル	
展着剤	2 0 ml	
ナリアWDG	5 0 g	（収穫前日、2 回以内）
アーデント水和剤	1 0 0 g	（収穫前日、3 回以内）

散布日	月	日
散布量		リットル

対象病虫害：灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類

10 a 当り散布量：6 0 0 リットル

【注意事項】

①せん孔細菌病の多発園は、スターナ水和剤の 1, 000 倍（7 日前、3 回）を加用する。

さらに、今回の散布から 7～1 0 日後にスターナ水和剤 1, 000 倍（7 日前、3 回）を特別散布する。

*ただし、収穫前規制に注意する。（収穫 7 日前まで）

②アーデント水和剤に代えて、イカズチWDGの 1, 500 倍（前日、2 回）を使用してもよい。

③ナリアWDGはぶどう（ピオーネ、サニールージュ）、西洋梨ルクチェに薬害を生じる恐れがあるので、隣接園は注意する。

裏面は、今後の管理作業、せん孔細菌病対策について掲載しています

せん孔細菌病対策について

多発園では下記の対策を継続してください。

- ① 春型枝病斑を除去する（伝染源を少しでも減らす）
- ② 薬剤の散布間隔は10日以内とする（予防散布を継続する）
- ③ 早期に袋掛けを実施する（降雨による果実感染を防止する）

＊薬剤散布による防除（殺菌剤）は、あくまでも予防です。感染した後の治療効果は期待できません。
降雨前の散布を徹底してください。

＊白根白桃・黄金桃・ネクタリン等、せん孔細菌病の多発が心配される品種や、せん孔細菌病多発園地では果実感染防止のため、薬剤散布実施後なるべく早く袋掛けを実施してください。ただし、黄金桃・ネクタリン等で7月に生理落果が発生する品種は、着果量をやや多めに残して袋掛けを実施してください。

今後の管理について

◆仕上げ摘果、袋掛けをすすめましょう

- ・ 成木 10 a 当りの目標着果量は 12,000～13,000 果とする（最終着果量は、品種や樹勢等を考慮して決める）
- ・ 残す果実は、大きくて扁平な果実を残す。大きくて丸味のある果実は、双胚果の可能性が高く生理落果の要因になるので摘果する
- ・ 着果位置は、結果枝の側方、斜め下方の果実を残す
- ・ 毎年生理落果や双胚果が多い園地では、仕上げ摘果でも多めに残しておき、袋掛け前に修正する
- ・ 袋掛けは、仕上げ摘果が終了次第早急に行ないましょう

【結果枝別の着果基準】 適樹勢の場合

結 果 枝	予備摘果	仕上げ摘果
長 果 枝 (30cm 以上)	2 ～ 3 個	1 ～ 2 個
中 果 枝 (10～30cm)	1 ～ 2 個	0 ～ 1 個
短 果 枝 (3～10cm)	0 ～ 1 個	0 ～ 1 個 (5 ～ 6 本に 1 個)

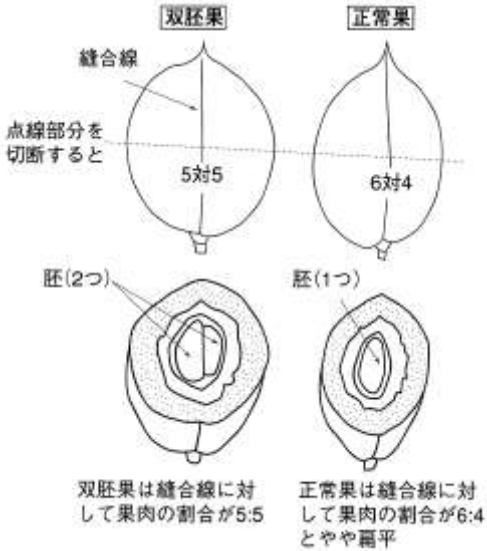


図 双胚果と正常果の違い

◆夏季管理

- ・ 日焼け防止・・・幹の太さが直径 10cm を超えると、背面が日焼けをおこしやすくなるので、フジホホワイト等を塗布する。また、背面の弱い新梢は日焼け防止に残しておく。
- ・ 徒長枝切り・・・背面から発生した発育旺盛な新梢を中心に徒長枝切りを行なう。（日照、薬剤の到達、樹形の維持）＊日焼け防止のため、切り過ぎないように注意する。
- ・ 誘引・・・幼木や若木に対して、主枝や亜主枝養成のために行う。樹液の流動が盛んになり、枝がやわらかくなる夏季に実施する。
- ・ 支柱立て・・・主枝、亜主枝の垂れ下がり、枝折れ防止対策として実施する。

◆下草管理 園内除草を徹底しましょう

除草剤使用基準	・・・	10 a 当り	バスタ液剤 500m l	水量 100～150 リットル
---------	-----	---------	--------------	-----------------

◆極早生品種（たまき、日川白鳳、赤宝など）の除袋時期について

本年の、たまきの収穫開始期は平岡地区で7月18日頃（平年並）を予想しています。有袋栽培の園地では、収穫7～10日前が除袋時期の目安となりますので、果面の地色の状態（やや緑色が残っている位）を確認し、遅れないよう除袋を実施してください。